

論題：台湾は首都機能を分散すべきである 是か非か

首都機能とは、総督府、五院（行政院、立法院、司法院、考試院、監察院）を含むものとする。ここでいう首都機能の分散とは、首都機能の一部を新北市以外に移転することとする。

論題背景：台湾は、台北に政治・経済・文化・人口など、社会における資本・資源・活動が集中しているといえる。社会資本や資源を一極集中することで、台北の経済成長を促し、その国際競争力を押し上げ、台湾の経済成長の牽引役となってきた。一方で、一極集中化が進むに連れ、台北の都市問題の深刻化や地域間格差の拡大などの問題が顕著になってきた。2009年の行政改革により首都以外の直轄市への権限が付与され、台北への一極集中が緩和されつつあるが、それが解決されたとはいいがたい。特に、台北の災害時に対するリスクの高さは大きな課題となっている。2015年に英ロイズ保険組合とケンブリッジ大学のリスク研究センターが公表した世界各都市の今後10年間の事故や自然災害による危険度に関する調査レポートによれば、危険度が最も高いのは台湾の台北であり、「今後10年間の事故や自然災害での経済損失が1812億米ドル（約21兆7000億円）に上ると」予想されている¹。この問題は、行政改革では解決できない問題である。首都機能の移転は、台北への一極集中をさらに緩和するとともに、災害時のリスクを分散させる効果があると考えられる。

予想されるメリット

- ① 台北への一極集中の是正（地方経済の活性化、人口集中緩和など）
- ② 災害対応力の強化（政治・行政・経済の中核機能分散によるリスク分散、跡地利用などによる防災力向上）
- ③ 経済・財政への波及（公共事業による経済効果や環境・情報等多分野における新たな基盤整備・跡地の売買など）
- ④ 国政及び都市機能の改善（機能的な都市整備の実現や国政システムの改善）

予想されるデメリット

- ① 財政の更なる悪化（移転にかかる莫大な時間・費用の発生、さらに交通費・通信費のコスト増）
- ② 台北及び台湾の国際競争力低下
- ③ 都市整備に伴う環境破壊と非効率性

¹ ライブドアニュース「世界の301都市で今後10年間の危険度が高い国 東京は2位に」（2015年9月19日,<http://news.livedoor.com/article/detail/10612631/>）

※論題決定にあたり、メリット・デメリットのバランスについては考慮しましたが、但し書きなどに改善の余地はあると思います。良いアイデアをお持ちの方は、wenzaojpdebate@gmail.com までお知らせいただけると助かります。大会一月前までなら対応できると思います。よろしくお願いいたします。